**「機械力学・計測制御分野特集号 2016」
発刊にあたって**梶原 逸朗^{*1}**Special Issue on the field of Dynamics, Measurement and Control 2016**Itsuro KAJIWARA^{*1}^{*1} Division of Human Mechanical Systems and Design, Hokkaido University,
N13, W8, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido 060-8628, Japan

このたび、機械力学・計測制御分野特集号 2016 が発刊されました。本特集号は、2015 年 8 月 25 日-28 日の間、弘前大学で開催された D&D2015 の中で発表された論文を含め、投稿された関連論文に対し厳格な査読プロセスを経て選定された論文で構成されています。そして、機械力学・計測制御分野において、理論面および技術面ともに質の高い論文が掲載されており、本分野に関する技術は、様々な機械システムにおいて極めて重要な役割を果たしております。読者の今後のご研究や技術開発に、必ずや参考になるものと確信しております。

現在、学問体系および技術体系は多様化かつ複合化されているため、研究者および技術者は、どの学会で活動するのか、またどの論文集に研究内容を公開するのか、いろいろと考えるところがあると思います。インパクトファクターの付与された英文国際誌への掲載が求められるところも多いと聞きます。世界的に、論文集は数多く存在するので、競争の中で日本機械学会論文集も生き抜いていかなければなりません。その意味で、近年、新しくなった日本機械学会論文集を盛り上げていってほしいと思います。

著名な国際ジャーナルに掲載された論文を読むと、確かにとても参考になるいい論文を見かける一方、機械工学分野で世界的なジャーナルであるにもかかわらず、ときどきその価値を見出すのに苦労する論文を目にすることもあります(単に私の能力不足である可能性も高いですが)。日本機械学会論文集には、和文・英文とも、質の高い論文を見かける機会が多いと感じています。この背景には、我が国において研究・技術開発に携わっておられる方の、仕事に対する誠実かつ緻密な取り組み、またいいものを世に出すという高い意識が反映されているのではないかと思います。もちろん、編集および査読に携わっている方々の努力も大きいです。さらに、本特集号という企画も、多くの研究者から積極的にいい論文を投稿いただくよい動機付けになっていると考えております。

たとえ、学問体系・技術体系が多様化かつ複合化されていても、それを支えるのは基礎学問・基礎技術であることは確かです。機械力学・計測制御分野における学問・技術も、先端機械システムの核の一つであることに間違いありません。この意味から、本特集号には、まさに機械力学・計測制御分野を代表する意義のある論文が掲載されており、分野を超えた複合的な学問・技術への展開を考える上でも、非常に役立つ内容の論文であると信じています。私事ですが、2016 年度から日本機械学会の編修理事を仰せつかっており、このタイミングで本特集号が発刊されたのは、私にとっても喜ばしいことです。魅力的な企画および掲載論文を通じて、日本機械学会の論文集が、これからも発展し続けることを願っております。読者の皆様に、本特集号を大いにご活用いただければ幸いに存じます。

特集号挨拶[DOI: 10.1299/transjsme.16-pre03]

^{*1} 正員, フェロー, 北海道大学 (〒060-8628 北海道札幌市北区北 13 条西 8 丁目)

E-mail of corresponding author: ikajiwara@eng.hokudai.ac.jp